
大牟田・荒尾清掃施設組合
新ごみ処理施設整備・運営事業

審 査 講 評

令和5年12月

大牟田・荒尾清掃施設組合
一般廃棄物処理施設整備事業者選定委員会

大牟田・荒尾清掃施設組合新ごみ処理施設整備・運営事業

目 次

第1章 事業概要	1
1 事業名称.....	1
2 公共施設の概要等.....	1
3 事業期間.....	1
4 事業方式.....	1
5 事業範囲.....	1
第2章 審査方法等	2
1 入札の方法.....	2
2 最優秀提案者決定までの経過.....	2
3 選定委員会の設置.....	2
4 選定委員会の開催経過.....	3
5 最優秀提案者決定の手順.....	3
6 審査手順.....	5
第3章 最優秀提案者選定結果	8
1 資格審査.....	8
2 提案書の基礎審査.....	8
3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング.....	8
4 入札価格の定量化審査.....	12
5 総合評価値の算出.....	12
6 最優秀提案者の選定.....	12
第4章 総評	13

第1章 事業概要

1 事業名称

大牟田・荒尾清掃施設組合新ごみ処理施設整備・運営事業

2 公共施設の概要等

- (1) 対象となる公共施設の種類
エネルギー回収型廃棄物処理施設

- (2) 建設予定地

項目	概要
所在地	大牟田市健老町 473-1、474、475-1、475-2 番地
敷地面積	約 30,951 m ²

- (3) 施設の概要

概要		
エネルギー回収型 廃棄物処理施設	処理方式	ストーカ式（全連続燃焼式）
	処理能力	156 t /24 h （78 t /24 h ×2 炉）
	処理対象物	可燃ごみ、可燃性粗大ごみ、可燃残渣、災害廃棄物等

3 事業期間

事業期間等は、以下のとおりである。

事業期間：事業契約締結日から令和 30 年 3 月 31 日まで

設計・施工期間：事業契約締結日の翌日から令和 10 年 6 月 30 日まで

運営期間：令和 10 年 7 月 1 日から令和 30 年 3 月 31 日まで

運営準備期間：事業契約締結日の翌日から令和 10 年 6 月 30 日まで

4 事業方式

大牟田・荒尾清掃施設組合新ごみ処理施設整備・運営事業（以下「本事業」という。）は、本施設的设计・施工及び運営に係る業務を事業者が一括して行う DBO（Design：設計、Build：施工、Operate：運営）方式により実施する。

5 事業範囲

運営事業者が行う本事業の業務範囲は、次のとおりである。

- (1) 設計・施工業務
(2) 運営業務

第2章 審査方法等

1 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令第167条の10の2第1項の規定に基づく総合評価一般競争入札方式により実施した。

2 最優秀提案者決定までの経過

最優秀提案者決定の経過は、表1のとおりである。

表1 最優秀提案者決定の経過

日 時	内 容
令和5年 5月 10日 (水)	入札公告 (入札説明書等の公表)
令和5年 5月 18日 (木) ～ 5月 24日 (水)	現地見学
令和5年 5月 10日 (水) ～ 5月 30日 (火)	入札説明書等に関する質問受付 (第1回)
令和5年 6月 9日 (金)	入札説明書等に関する質問回答 (第1回) の公表
令和5年 6月 19日 (月) ～ 6月 23日 (金)	参加表明書及び参加資格確認申請書類の受付
令和5年 7月 7日 (金)	参加資格確認結果の通知
令和5年 7月 19日 (水) ～ 7月 25日 (火)	対面的対話確認事項及び入札説明書等に関する質問受付 (第2回) の受付
令和5年 8月 17日 (木)	対面的対話の実施
令和5年 9月 1日 (金)	対面的対話結果及び入札説明書等に関する質問回答 (第2回) の公表
令和5年 10月 11日 (水)	入札提案書類の受付
令和5年 12月 8日 (金)	入札提案書類に関するヒアリング、審査、開札 最優秀提案者の選定

3 選定委員会の設置

大牟田・荒尾清掃施設組合一般廃棄物処理施設整備事業者選定委員会 (以下「選定委員会」という。) において行った。

[委員構成]

委員 長	島岡 隆行	九州大学大学院工学研究院教授	
副委員 長	鳥居 修一	熊本大学大学院先端科学研究部教授	
委員	荒井 喜久雄	公益社団法人全国都市清掃会議技術指導部長	
委員	押方 利郎	福岡大学元教授	
委員	副枝 修	大牟田市副市長	
委員	田上 稔	荒尾市副市長	
委員	米崎 好美	大牟田市都市整備部長	
委員	末永 淳一	荒尾市建設農水部長	令和5年4月1日から
委員	伊豫 英樹	大牟田市環境部長	令和5年4月1日から
委員	片山 貴友	荒尾市市民環境部長	令和5年4月1日から
※1	北原 伸二	荒尾市産業建設部長	令和5年3月31日まで
※2	黒田 省二	大牟田市環境部長	令和5年3月31日まで
※3	松村 英信	荒尾市市民環境部長	令和5年3月31日まで

4 選定委員会の開催経過

本事業の事業者選定における選定委員会の開催経過は、表2のとおりである。

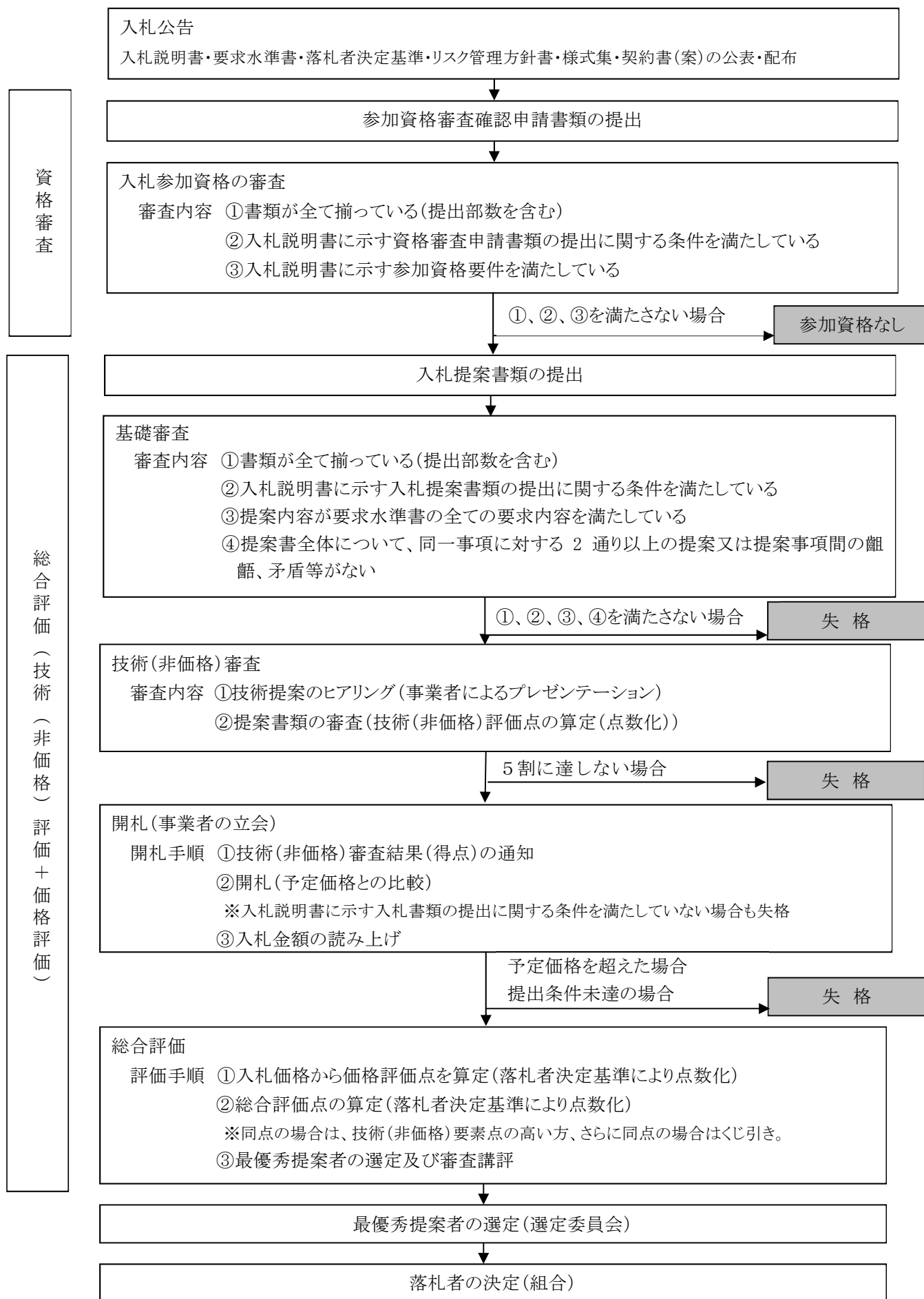
表2 選定委員会の開催経過

日 時	内 容
令和4年12月7日(水)	【第1回委員会開催】 主な内容:委員会の運営に関する事項(案)、事業方式の選定などについて
令和5年2月3日(金)	【第2回委員会開催】 主な内容:実施方針(案)、落札者選定における評価方法(案)などについて
令和5年4月4日(火)	【第3回委員会開催】 主な内容:入札公告に関する資料について
令和5年5月1日(月)	【第4回委員会開催】 主な内容:入札公告に関する資料について
令和5年9月14日(木)	【第5回委員会開催】 主な内容:対面的対話についての意見交換 今後のスケジュールと審査方法について
令和5年11月16日(木)	【第6回委員会開催】 主な内容: <ul style="list-style-type: none">・基礎審査結果について・提案書に関する意見交換・ヒアリング確認事項について
令和5年12月8日(金)	【第7回委員会開催】 主な内容:提案書類に関するヒアリング 技術(非価格)点の決定、価格要素点、総合評価点の決定、最優秀提案者決定、答申(案)、審査講評(案)について、答申

5 最優秀提案者決定の手順

最優秀提案者決定の手順については、図1のとおりである。

図1 最優秀提案者決定の手順



6 審査手順

(1) 参加資格審査

参加資格審査は、参加表明書及び参加資格審査申請書の提出書類により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを組合事務局において確認する。

(2) 提案審査

ア 提案書の基礎審査

選定委員会は、提案書等に記載された内容が、落札者決定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認する。確認内容は、次のとおりである。

- (ア) 書類が全て揃っている（提出部数を含む）こと
- (イ) 入札説明書に示す入札提案書類の提出に関する条件を満たしていること
- (ウ) 提案内容が要求水準書の全ての要求内容を満たしていること
- (エ) 提案書全体について、同一事項に対する 2 通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと

イ 非価格要素の定量化審査

(ア) 審査項目及び配点

選定委員会は、表 3 に示す審査項目及び配点に対し、提案書等に記載された内容について審査する。

表3 審査項目及び配点

大項目		中項目	小項目	配点	
施設整備基本方針の実現	長期的に安定した処理が可能な施設	施設性能	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ焼却システムの技術的特徴 ・ごみ処理の性能曲線とごみ量、ごみ質変動への対応 	4	12
		安定稼働の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・主要設備のメンテナンス方法 	3	
		長寿命化の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化の実現（主要設備の耐用年数と修繕計画等） ・塩害対策 ・次期事業者への引継ぎ計画 	5	
	環境に配慮した低炭素社会に貢献する施設	公害防止基準の確実な遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・排ガスの基準を満足するための取組み ・騒音、振動、悪臭対策（設計・施工時及び運営時） ・工事中の騒音、振動、粉塵、濁水等防止対策 	3	8
		環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策 ・雨水利用量と具体策 ・プラント排水の下水道放流量と削減策 ・焼却残渣量の削減 ・建設廃棄物の削減 	5	
	環境の大切さを学ぶことができ、次世代へつなげる施設	情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・住民からの信頼、安心感の提供 	3	8
		環境学習計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育設備の設置内容と更新計画 ・環境学習の支援メニュー 	5	
	経済性やエネルギーの有効利用に優れた施設	エネルギーの有効活用等	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理に伴うエネルギー回収率、年間売電量 	4	4
	災害に強く地域防災拠点となる施設	災害に強い強靱な廃棄物処理システム	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・台風・浸水・火事・落雷対策と設計への反映 	3	6
		災害復旧支援	<ul style="list-style-type: none"> ・本施設の復旧計画 ・災害発生時の協力内容 ・災害廃棄物受け入れ提案 	3	
事業計画	安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・施工時の品質管理・安全管理 ・運営時の安全確保 	3	22	
	デザイン計画	<ul style="list-style-type: none"> ・意匠・デザイン計画 ・空間・緑化計画 ・保持計画や修繕計画 	3		
	配置・動線計画	<ul style="list-style-type: none"> ・安全配置・動線計画 	3		
	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・人員配置及び事業の実施体制（代表企業以下の役割と責任分担及び通常時並びに緊急時の連絡体制等） ・運転管理計画 	4		
	事業収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・安定収支計画（安定化の仕組み） 	3		
	地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の活用、資材調達への協力 ・地元雇用 ・地域への社会貢献 	6		
合計				60	

(イ) 非価格要素の得点化方法

- ① 提案を求めている審査項目においては、表4に示す5段階評価による得点化方法により得点を付与する。
- ② 各審査項目の評価点については、各委員が個別に行った評価の平均値とする。なお、平均値を求める際は、小数第3位を四捨五入した値とする。
- ③ ②の結果をもとに、各入札参加者の得点の合計を算出する。
- ④ 非価格要素の得点（技術(非価格)点）が5割に達しない場合、落札者として選定しない。

表4 技術提案に関する得点化方法

評 価	説 明	点 数
A	特に優れている	配点×1.0
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.5
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	要求水準書を満たす程度である	配点×0

ウ 入札価格の定量化審査

入札価格においては、入札価格（様式集、様式第14号に記載する金額をいう。）について、表5の算定式により得点を付与する。得点は、小数第3位を四捨五入した値とする。

表5 入札価格の得点算定式

入札価格の得点算定式	
○最低入札価格＞定量化限度額の場合	$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格評価点（価格点）} \end{array} \right) = 40 \text{ 点} \times \left(\frac{\text{最低入札価格}}{\text{入札価格}} \right)$
○最低入札価格≦定量化限度額の場合	$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格評価点（価格点）} \end{array} \right) = 40 \text{ 点} \times \left(\frac{\text{定量化限度額}}{\text{入札価格}} \right)$
※1	定量化限度額：予定価格（入札書比較価格予定価格調書の比較価格）×80%
※2	最低入札価格：全入札参加者の入札価格のうち、最も低い価格。 ただし、失格になった者の入札価格を除く。
※3	入札価格が定量化限度額より低い場合、価格点は40点を上限とする。

エ 総合評価値の算定方法

「イ 非価格要素の定量化審査」、「ウ 入札価格の定量化審査」により算出した得点を合計し、各入札参加者の総合評価値を算出する。

表6 総合評価値の算出方法

総合評価値の算定式	
$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価点} \\ \text{(100点)} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{技術（非価格）点} \\ \text{(60点)} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格点} \\ \text{(40点)} \end{array} \right)$	
※	()内は各得点の配点を示す。

第3章 最優秀提案者選定結果

1 資格審査

令和5年5月10日に入札公告を行い、令和5年6月19日から23日に参加表明書及び参加資格審査申請書を受け付けたところ、以下の1グループから応募があった。

大牟田・荒尾清掃施設組合（以下、「組合」という。）は、参加資格の確認を行い、令和5年7月7日に代表企業に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知した。

表7 参加表明書及び参加資格審査申請書等提出グループ

受付グループ名	くぬぎグループ
グループ名	JFE エンジニアリンググループ
代表企業	JFE エンジニアリング株式会社 九州支店
構成員	JFE エンジニアリング株式会社 九州支店 JFE 環境サービス株式会社 JFE 環境テクノロジー株式会社 テスコ株式会社
協力企業	前田建設工業株式会社 九州支店 西部電気工業株式会社

なお、選定委員会による審査にあたっては、審査の公平性を期すため、提案書等すべての書類において企業名は伏せ、受付グループ名で審査を行った。

2 提案書の基礎審査

令和5年10月11日に入札参加資格を有する1グループより提案書等が提出された。

提出された提案書等をもとに基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。提案書は、組合が要求する水準を満足していること等が確認されたため、基礎審査に合格しているものと認められた。

3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング

選定委員会は令和5年12月8日に提案書の定量化審査を行った。審査に際しては、提案書に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し審査を行った。

定量化審査の審査項目について、適確な提案がなされているかの審査を行い、提案書に関する得点化を行った。なお、評価は、組合の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式である。

審査結果を表8に示す。

表 8 提案書の定量化審査の得点結果

審査項目			No.	配点	くぬぎグループ	
大項目	中項目	小項目				
計						
施設整備基本方針の実現	長期的に可能な安定した処理	計		12	8.98	
		施設性能	・【建】ごみ焼却システムの技術的特徴 ・【建/運】ごみ処理の性能曲線とごみ量、ごみ質変動への対応	1	4	3.00
		安定稼働の実現	・【建/運】主要設備のメンテナンス方法	2	3	2.10
	長寿命化の実現	・【建/運】長寿命化の実現(主要設備の耐用年数と修繕計画等) ・【建】塩害対策 ・【運】次期事業者への引継ぎ計画	3	5	3.88	
	環境に配慮した低炭素	計		8	5.55	
		公害防止基準の確実な遵守	・【建/運】排ガス基準を満足するための取組み ・【建/運】騒音、振動、悪臭対策(設計・施工時及び運営時) ・【建】工事中の騒音、振動、粉塵、濁水等防止対策	4	3	1.80
	環境負荷の低減	・【建/運】地球温暖化対策 ・【建/運】雨水利用量と具体策 ・【建/運】プラント排水の下水道放流量と削減策 ・【建/運】焼却残渣量の削減 ・【建】建設廃棄物の削減	5	5	3.75	
	環境の大切さを学ぶこと、次世代へつなげる施設	計		8	5.70	
		情報提供	・【建/運】住民からの信頼、安心感の提供	6	3	1.95
	環境学習計画	・【建/運】教育設備の設置内容と更新計画 ・【運】環境学習の支援メニュー	7	5	3.75	
優れた施設	計		4	3.40		
	エネルギーの有効活用等	・【建/運】ごみ処理に伴うエネルギー回収率、年間売電量	8	4	3.40	
防災拠点となる地域	計		6	4.43		
	災害に強い廃棄物処理システム	・【建/運】地震・台風・浸水・火事・落雷対策と設計への反映	9	3	2.25	
災害復旧支援	・【建/運】本施設の復旧計画 ・【建/運】災害発生時の協力内容 ・【建/運】災害廃棄物受け入れ提案	10	3	2.18		
計			22	14.30		
事業計画	安全確保	・【建】施工時の品質管理・安全管理 ・【運】運営時の安全確保	11	3	1.95	
	デザイン計画	・【建】意匠・デザイン計画 ・【建】空間・緑化計画 ・【運】維持計画や修繕計画	12	3	1.95	
	配置・動線計画	・【建/運】安全配置・動線計画	13	3	1.80	
	実施体制	・【建/運】人員配置及び事業の実施体制(代表企業以下の役割と責任分担及び通常時並びに緊急時の連絡体制等) ・【運】運転管理計画	14	4	2.60	
	事業収支計画	・【運】安定収支計画(安定化の仕組み)	15	3	1.95	
	地域貢献	・【建/運】地元企業の活用、資材調達への協力 ・【運】地元雇用 ・【建/運】地域への社会貢献	16	6	4.05	
合計			60	42.36		

提案書に関する各審査項目における講評は、表9のとおりである。

表9 各審査項目の講評

大項目		中項目	講評
施設整備基本方針の実現	長期的に安定した処理が可能な施設	施設性能	<ul style="list-style-type: none"> 代表企業は長期にわたる稼働実績を有しており信頼性の高い技術であることを評価した。 最新技術の導入によりごみ量・ごみ質の変動へも柔軟性をもって対応できることを評価した。
		安定稼働の実現	<ul style="list-style-type: none"> ごみ焼却処理施設の建設・維持管理にかかる多くの実績に裏打ちされ具体的な技術や方法、また、ごみピットにおける火災の早期発見方策など新技術も提案されていることを評価した。 検知システム、エラー対策、事後の支援体制等について安定稼働の実現性が期待できる提案となっていることを評価した。
		長寿命化の実現	<ul style="list-style-type: none"> 代表企業が有する国内ごみ焼却処理施設の維持管理経験に基づく独自の高耐久化設計及び最適な点検と修繕計画が具体的に提案されており、実現性が期待できることを評価した。 立地条件を考慮した塩害対策も具体的に示されており、耐久性の向上が期待できることを評価した。 点検・補修の方法及びスケジュール、体制の構築・継続の方法等については施設の長寿命化を期待できる提案となっていることを評価した。
環境に配慮した低炭素社会に貢献する施設		公害防止基準の確実な遵守	<ul style="list-style-type: none"> 実績に裏付けられた制御システム、多段階の排ガス濃度管理による提案は実効性のあるものと期待できる点を評価した。 排ガス基準超過時の対応、支援体制、騒音、振動、悪臭に対する低減対策などが明確であり、効果が期待できることを評価した。
		環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> 目標数値の提案とその実現に係る提案が示されており、実施した際の効果が期待できることを評価した。 雨水やプラント排水の高度利用に係る提案が示されており、上下水道の負荷低減に貢献する計画となっていることを評価した。 焼却残渣の低減については、具体的な技術と数値目標が示されていることを評価した。
環境の大切さを学ぶことができ、次世代へつなげる施設		情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 住民の安心感を高め、信頼を得るための情報、環境保全、環境負荷低減を促進する情報発信策が具体的に提案されていることを評価した。
		環境学習計画	<ul style="list-style-type: none"> 見学動線は様々な工夫を凝らしており、単なる施設見学に終始しない提案であることを評価した。 各種の技術導入による学習効果向上のための取組みは興味を引く提案であり実効性が期待できることを評価した。

	経済性やエネルギーの有効利用に優れた施設	エネルギーの有効活用等	<ul style="list-style-type: none"> 代表企業の高効率発電技術、運転技術及び廃棄物発電の実績に基づく要求水準を上回るエネルギー回収率の目指すことは、カーボンニュートラルに向けた組合の方針に整合する提案として評価した。 発電した電力の売電に係るサポート体制についても提案されており、売電量を増加する取り組みとして期待できることを評価した。
	災害に強く地域防災拠点となる施設	災害に強い強靱な廃棄物処理システム	<ul style="list-style-type: none"> 代表企業の震災経験に基づく各種技術や自主災害組織及び災害対応策が提案されていることを評価した。
		災害復旧支援	<ul style="list-style-type: none"> 過去の経験、最新情報を基にしたBCPの策定、災害初動対応、代表企業の災害復旧支援、災害廃棄物処理等に対する支援体制が具体的に提案されており、災害発生時の迅速な普及が期待できることを評価した。
事業計画		安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 先端技術を駆使した施工時、運営時の品質・安全管理は妥当と評価した。 30施設以上の運営実績に基づく具体的な提案については実効性が期待できることを評価した。
		デザイン計画	<ul style="list-style-type: none"> 組合構成市の地域特色や大牟田エコタウンへの立地を十分考慮しており、親しみやすい意匠設計がなされていることを評価した。
		配置・動線計画	<ul style="list-style-type: none"> 建設予定地の特性を捉えエリア分けを行うなど安全性を考慮した配置・動線計画がなされていることを評価した。
		実施体制	<ul style="list-style-type: none"> 代表企業の豊富な実績に基づく安心感のある実施体制になっていることを評価した。 構成企業、協力企業との緊密な連携による実施体制となっていることを評価した。 モニタリングに関しては、複層的・多角的な実施や各企業の役割が明確に示されていることを評価した。
		事業収支計画	<ul style="list-style-type: none"> 代表企業の全国的なSPC経営実績、財政的な基盤、バックアップ体制に関する提案は安定した収支の実現を期待できる内容となっていることを評価した。
		地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 様々な形で地域貢献が示されており、特に運転員については、地元雇用に対する積極性を感じる提案となっていることを評価した。

4 入札価格の定量化審査

提案書等を提出した各入札参加者及び選定委員会の立会いのもとで令和5年12月8日に開札を行い、予定価格の範囲内であることを確認した。

選定委員会は、開札結果の報告を受け、入札価格の定量化審査に関する得点化を行った。得点化の結果は、表10のとおりである。

表10 入札価格の定量化審査の得点結果

項目	配点	応札額	最低価格
入札金額（税抜）	—	33,679,000,000円	33,679,000,000円
価格評価点	40点	40点	—

※ 入札価格（設計・建設、運営業務に係る対価）の定量化限度額：27,054,400,000円（消費税及び地方消費税額を含まない）

※ 予定価格：33,818,000,000円（消費税及び地方消費税額を含まない）

5 総合評価値の算出

令和5年12月8日に「技術（非価格）点」、「価格点」を加算して、表11のとおり総合評価値を算出した。

表11 総合評価値の算出結果

項目	配点	くぬぎグループ
技術（非価格）点	60点	42.36点
価格点	40点	40.00点
総合評価点	100点	82.36点

6 最優秀提案者の選定

選定委員会は、上記の結果に基づき「JFEエンジニアリンググループ（代表企業：JFEエンジニアリング株式会社 九州支店）」を最優秀提案者として選定した。

第4章 総評

本事業は、組合が掲げる「長期的に安定した処理が可能な施設」、「環境に配慮した低炭素社会に貢献する施設」、「環境の大切さを学ぶことができ、次世代へつなげる施設」、「経済性やエネルギーの有効利用に優れた施設」、「災害に強く地域防災拠点となる施設」を具現化した施設整備や運営・維持管理を実施することを目指している。加えて、30年以上にわたって使用することを前提として本事業を実施することとしている。

また、本事業は、本施設の設計・施工業務及び運営業務を民間事業者が一括して行う DBO 方式により、民間の創意工夫による提案を取り入れた良質な設計・建設業務と、効率的かつ効果的な運営業務を実施するものである。

このような背景を踏まえ、総合評価一般競争入札により組合が落札者を選定するにあたり、選定委員会では、基本理念及び施設整備・運営コンセプトに基づき、かつ透明性、公平性に最大限配慮した選定基準を定め、最優秀提案者選定のための審査を実施した。

今回、1グループからの提案ではあったが、本事業の目的を的確に捉え、組合が要求する水準を上回る提案内容であり、組合の課題に対応して的確かつ効果的な提案が多数見受けられた。提案内容が多岐にわたることから、提案書の作成において多大な労力及び費用負担があったことが想定される。

そうしたなかで提案をまとめた応募者の熱意及び姿勢に敬意を表するとともに、深く感謝する。

審査においては、提案書及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、JFE エンジニアリング株式会社九州支社を代表企業とする JFE エンジニアリンググループを最優秀提案者として選定するに至った。提案については、事業全体を見渡したバランスの取れた提案であり、組合の現状を踏まえた深い考察が多く見られ、提案の具体性、確実性があるものとして評価した。一方で提案内容に対して、以下に示す配慮・要望事項が挙げられた。

- ① 有害物質等の抑制、除去、排水・雨水の再利用、焼却残渣の低減、エネルギー回収率の向上、消費電力の低減等を確実に実施し、環境負荷の低減、カーボンニュートラルの推進を図ること
- ② 配置・動線計画については、搬入・搬出車等の安全で円滑な往來を確保するとともに、西側エリアにおける施設の建て替えを見据えた施設配置となるよう組合と十分協議を行うこと
- ③ 環境学習計画については、構成2市の環境政策との整合を図るとともに、学習プログラムやコンテンツの更新等により、学習及び啓発効果の向上に努めること
- ④ 災害初動対応、災害復旧支援、災害廃棄物処理等の提案に基づいた対応を確実に実行し、ごみ処理の早期復旧、安定したごみ処理の継続が図れるよう努めること
- ⑤ 地元企業の活用、資材調達への協力及び地元雇用については、建築・運営期間にわたってより一層拡大すること
- ⑥ 要求水準書及び提案書に示す事項については、組合の意向に沿った内容となるよう十分に協議・調整を行ったうえで履行すること

最後に、事業期間を通じて組合と JFE エンジニアリンググループが良きパートナーとなり、地域との信頼関係を基本に本事業を円滑に推進することを希望する。また、上記の配慮・要望事項について、入札及び契約の公平性を妨げない範囲において本事業をより良いものとするために組合と十分な協議を行い、真摯な対応に努め、今後の事業期間にわたり質の高い公共サービスを提供するよう期待する。

令和5年12月15日

大牟田・荒尾清掃施設組合一般廃棄物処理施設整備事業者選定委員会

委員長 島岡 隆行